

ジェイムズ・ジョイス『ユリシース』第12挿話(新訳と注解)-その二

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学教養論集刊行会 公開日: 2011-01-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小川, 美彦 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/8990

ジエイムズ・ジョイス

『ユリシーズ』第一二挿話（新訳と注解）——その二

小川美彦

凡例

* 印は将来において注解を付ける個所を示す。

割注に「訳」とあるのは「訳者の注」の意味である。そしてそれは、

Weldon Thornton : Allusions in *Ulysses*. An Annotated List.

Don Gifford with Robert J. Seidman : Notes for Joyce. An Annotation of James Joyce's *Ulysses*.

以上二冊の注釈書の注の訂正および一部加筆、もしくは新しく書き加えた割注であることを示す。

割注に例えば1—158、2—130とあるのは、それぞれこの第一二挿話——その一、その二の参考にすべきページ数を表わしている。

略字として、Ir ≡ Ireland D ≡ Dublin B ≡ Bloom M ≡ Mollyを用いた。

聖書よりの引用は原則として Douay Version の章節によるが、Authorized Version への言及は「欽定訳」と明示した。また、聖書からの引用句の訳文は英国聖書協会の文語訳を用いたが、一部訳者が手を加えたところもある。

アイルランドの人名、地名の発音については、一部の古名をのぞきすでに英語化したものは英語読みにした。

最期の訣別の光景は筆舌に尽しがたい感動を喚び起していた。遠くの、また近くの鐘楼からはしめやかな臨終の鐘の音が間断なく鳴り続け、同時に陰鬱な広場のいたるところで、弔砲の沈重たる響きにとどき掻き消されながらも、覆いをした百を数える太鼓の不吉な予告が連続的に打ち鳴された。耳を聳する雷鳴の轟きと、身の毛もよだつ情景をありありと照し出す眩い稲妻のきらめきは、天国の砲列がさなきだに慄然たるその光景に、この世のものとも思われない狂敵の美を添加したことを物語っていた。沛然たる豪雨が怒れる天の水門より落ち来り、推定五〇万をくだらない脱帽した雲霞のごとき見物人の頭上に降り注いだ。警視総監みずからが指揮を取るダブルン首都警察の一隊がこの大群衆の秩序を維持し、さらに合間、合間には群衆の退屈しのぎに、ヨーク・ストリート〔D市南端、エインジャ・ストリートから、東のセント・ステイヴンズ・ゲリーンに向つてのびる通り〕「歌」吹奏楽団〔ヨーク・ストリート三八号に事務所を置く、D郡市保守党労働者ク〕が喪章をつけた楽器で、スペランツァの哀愁に満ちた詩〔うた〕によって幼少よりみなに親しまれてきた荘麗この上ない調べを実に見事に演奏して聞かせた。大勢の団体を組んでやってくるお上りさんの便宜のために、特別行樂臨時列車と、座蒲団つきのベンチをしつらえた大型遊覧馬車とが用意されていた。聴く者の心を弾ませずにはおかない何時もの節回しで、「＊リリが縛り首でのぼされる前の晩」を唄ったダブルンの人気大道歌手L—n—h—nとM—l—g—n〔リネハンとマ〕によって底抜けに陽気な気分が醸成された。わが無類のふたりの剽軽者は片面刷りの俗語が滑稽愛好家にうけて商売大繁盛であったが、卑俗におちいらぬ真のアイランド的なユーモアを好む一面のある者ならだれでも、汗の結晶である銅貨をふたりに与えるのを惜んだりはいしまい。問題の情景のよく見える窓また窓に群がっていた男女捨子養育院〔D市に男女の孤児を併せて收容する施設がないことはなかったが、同名のものは見当らない〕「歌」の子供たちはこの思いがけない出し物のおまけに喜んだが、父親もなく母親もないこの哀れな子供たちに、真にためになる慰安を与えてやるという誠に結構な考えを思いついた貧困者の姉妹修道会には宜しく讃辞を呈すべきである。多数の名流婦人を含む総督の招待客の一団は総督閣下御夫妻の案内で大観覧席の特別席に着き、いっぽう「翠緑島」の友人（F・O・T・E・I・）の名で知られる、色取りどりの礼服で着飾った外国使節の一団は刑場を挟んでちょうど真向

いの席に陣取った。その全員出席の使節団は、受勲者キスバチ・ゴモットモノーネ（使節団の主席で、半身不随のために強力な蒸気起重機の助けをかりて席に着かなければならなかった）、ムツシユ・ピエールポウル・チトビツクリタン、大滑稽爵ウラジンドロミール・ポケットハンカチエフ、最大滑稽爵レオボルド・ルドルフ・フォン・シツポノプロッキンタマギンカー、ウスノロ・ハナラーガ・キサシヨニー・クサベスト伯爵夫人、ハイラム・Ｙ・ホラブースト、フシトス・キャラメル・ブロス伯爵、アリ・ババ・ワイロシーシユ・サトハト・ガシム・エフエンデイ、セニヨール・ゴウシ・カバリエロ・ドン・ビザイ・イ・コトバ・イ・マラリア・デ・フウン・デ・シュトウブン、ポコポコ・ハラキリ、*シシキ郗鴻章、オラーフ・コパーケトルセン、メインヘア・テジナ・ファン・トランプ、パン・オノラックス・パディリスキ、ガチヨウドノ・プルフカンチヨ・ズボンノケツゴリシツチ、ヘル・インバイヤディレクトールシヤチヨウ・ハンス・カシリゼイリ、コクリツギムナジウムムゼーウムサナトリウムアンドツリホータイスセイキヒジヨウキンコウシツウシトクタイキョウジュドクトル・イクサヘイワフリート・セカイニカンゼンメインといった面々から成っていた。使節団全員が自分たちが立会うように招かれたこの言語に絶する残酷な情景に対して、およそ考えられうるもつとも口汚い異種雑多な言葉で異口同音に不満を表明した。続いてF・O・T・E・Iのあいだで、アイルランドの守護聖人〔聖パトリック〕の誕生日は正確なところ三月の八日か、それとも九日かという問題をめぐって喧々囂々けんけんごうごうの激論（それには全員が参加した）が持ちあがった。このような激しいやりとりが繰返されるうちに、砲弾、三日月刀、ブーメラン、喇叭銃らっぱじゆ、悪臭壺、肉切り包丁、雨傘、いしゆ弩、指節環、砂囊、銃鉄小塊が^ぎつぎつぎに動員され、情容赦なくばかばか殴りあいが行われた。童顔の警官、マクフアドン巡査は特使によってブーターズタウン〔D市中央郵政局の南東二・五キロ、D市都警察署がある〕から呼び出され、早速秩序を回復すると、電光石火の早業で相争う両派の体面を考慮した解決策としてその月の十七日を提案した。この九尺男の当意即妙の建議は直ぐ様みなに受けて、全員一致で讃同された。マクフアドン巡査は、中には数人血まみれの者もいたが、全F・O・T・E・Iから熱誠あふるる祝賀を受けた。受勲者ゴモ

ットモノーネが首席用肘掛け椅子の下から救出されてのち、その法律顧問ハラエミーミ弁護士の釈明するところによると、彼が三十二個所のポケットに隠し持っていたさまざまな物件は、乱闘騒ぎの間に年下の使節たちのポケットから抜き取られたもので、これも皆さんを正気に戻したいという首席のご意志の現れにほかならなかった。それらの物品（数百個の婦人紳士用金銀時計を含む）はただちにそれぞれの本来の持主に返され、その結果この上なく和氣藹々とした空気が全員に漲った。

落着いた気取らない足取りで、ラムボウルド〔四三〕は一分の隙もない昼間礼服に身を固め、お気に入りの血斑グラジョラスを胸に断首場の上に現われた。彼は例によってラムボウルド式の軽い咳払いをして自分の存在を知らせたが、その咳払いこそは、これまでに色々なひとが何度も何度も真似をしようと試みた（うまくいかなかったが）——簡にして要を得ると同時に、まったく当人独特のものであった。この世界的に有名な首斬り男の登場は大群衆の嵐のごとき歓声に迎えられ、総督お付きの女官たちとはというと、興奮のあまりハンカチをうち振る有様であったが、それにもまして興奮しやすい外国使節の一行は種々雑多な言葉で、ホーホ、バンザイ、エルエン・ジヴィオ、チンチン、ホルラ・クロニア、ヒップ・ヒップ、ヴィーヴ、アッラーとまことにかまびすしい歓呼の声を挙げ、中でも歌の国から来た使節の朗々としたエヴヴィーヴァの声（去勢歌手まがいのカタラーニがわが曾々祖母たちをすっかり魅了した、あの甲高い美声を思わせる高音部二点へ音）はいつも容易に聞き分けることができた。ちょうど十七時であった。と、間髪をいれず祈禱の合図がメガホンで流され、すぐさま全員が脱帽したが、その際に、リエンツィの革命以来一族の財産として伝えられてきた受勲者のいかにも家長然としたメキシコ帽は、お付きの顧問医師ドクター・シッコに脱がしてもらった。まさに罪によって死の罰を受けるに当って、わが英雄的な殉教者にカトリック教会所定の臨終の秘蹟を授けた高位の聖職者が、きわめてキリスト教的な敬虔な気持から、黒衣を白髪の頭の上に捲りあげて雨水の溜りの中に膝をつき、「恵みの御座」〔4126〕（ハッル人の手紙）にむかって熱烈な嘆願の祈りを捧げた〔同上517〕（転用）。斬首台のすぐそばに死刑執行人の不気味な姿が立っていたが、その顔はふたつの円い孔の空いた大き

な深鍋の中に隠れ、その孔からは眼だけが炯々^{けんけん}と輝いていた。運命の合図を待っている間に、彼は見るもおそろしい鉞^{まさかり}の刃を筋肉隆々とした前腕で研いで切味を試してみたり、残忍な、だが必要欠くべからざるその職務の崇拜者たちから贈られたひと群の羊の首を立続けに刎ねたりした。そばのいかにも立派なマホガニー材の机の上には、四裂き用ナイフと、入念に調製された各種の腸抜き用道具一式（世界的に名の知られた刃物製造会社、シェフィールド^{イギリスのヨークシャー郡南部の工業都市、鋼鉄工業の中心地}「賦」のジョン・ラウンド父子会社特製の）と、腸抜きがうまくいった場合に、十二指腸、結腸、盲腸、さらに虫垂などを入れる赤土素焼の鍋一個、それにいと貴き犠牲^{いけにえ}のいと「貴き御血」^{「ペテロI」}を入れるべき大きな牛乳缶が二個きちんと並べられていた。犬猫合同收容所^{「グラント・カナル河岸通」の賄係長が、一杯になったこれらの容器をその慈善施設へ搬出するために参列していた。ペーコン・エッグ、調理法にのっとった玉葱の油炒め^{いた}つきビフテキ、うまそうなほかほかの朝食用ロールパン、それに元気づけのお茶といった献立の飛切り上等な食事が、この悲劇の主人公に喫食してもらうために、親切にも市当局の手によって用意されていたが、当人はというと死出の覚悟をする間もきわめて上機嫌で、儀式の一部始終に異常な関心を示していたが、その彼が、今日においては珍らしい犠牲的精神からその場にふさわしいあっぱれな所業に出て、この食事を自分の好意と敬意のしるしとして、病氣と貧困の間借人連盟^{「D市パレス・ストリート二号に」のひとびとに約数に分けて与えてくれるよう臨終の遺言をした（これは即座に応諾された）}。頬を紅潮させた婚約中の花嫁が突然すし詰めの見物人の列を破って現われ、彼女のために永遠の旅路に送り出されようとしている恋人の逞しい胸に身を投げたとき、興奮は極点にして極致に到達した。われらの英雄は彼女のなやかな体をひしと抱きしめ、「シーラ、わが命」とやさしく呟いた。このように親しい名前で呼ばれたことに勢づけられて、女は情熱のおもむくままに、お仕着せの囚人服からわずかに露出している男の肉体のところかまわず熱烈な接吻の雨を降らせた。お互いの溢れ出る塩からい涙を混じりあうに任せながら、女は男の思い出はいつまでも心に秘めておくということ、ただちょっとクロンターク公園^{「現在のD市北部、南ドラムコンド」の「ラ地区」トルカ川のすぐ北}「賦」のハーリング^{「F式ホッケー」}の}

試合にでも出掛けるような態度で、歌を口ずさみながら死に赴くわが若き英雄のことはけっして忘れないということを手を誓った。女は男に、アナ・リフイ川の岸辺で子供の無邪気な遊びに耽りながら一緒に過ごした希望に輝く幼年時代の楽しい日々を思い出させ、お蔭でふたりは忌むしい今という時を忘れてともに心から笑ったが、それを見ていたすべての群衆が見るからに厳しいあの司祭も含めて、ひとり残らずそれに和して笑いさざめいた。居並ぶ大観衆がただ嬉しさに身を震わせるのであった。だがそれも束の間、ふたりはやがて悲嘆にうち拉がれ、これを最後とお互いの手をぐっと握りしめた。あらゆる涙の奔流がふたりの涙管からどっと溢れ出で、同時に大群衆も心の底まで感動してやにわに胸が張り裂けんばかりにすすり泣き始めたが、これにはあの高齢の名誉司祭も深い感動を覚えずにはいられなかった。涙を見せたことのない、ダブルン首都警察の警官とアイルランド英国警察の陽気な大男たちも人前を憚らずハンカチを使う有様、この空前の大観衆の中で涙を流さぬ者はひとりもいなかったといっても過言ではあるまい。と、きわめて感激的な事件が突発した。婦人に対する狭心で名の知られたひとりのオックスフォード大学の美青年がつかつかと進み出ると、名刺と預金通帳と家系図を取出してその薄倅な若い婦人に真剣に結婚を申込み、婚礼の日取をきめてくれるよう要請して、しかも即座に承諾が与えられたのであった。観衆のひとりひとりに気の利いた、当日の記念品として、頭骸骨の下に大腿骨を交差させた図柄のプローチが進呈され、これはまことに時宜を得た心尽しとしてあらたな感動を誘ったが、さらに例の慇懃なオックスフォード大学の青年（因に彼は不列顛史上もつとも由緒ある一家の子孫）が顔を赤らめている婚約者の指に、四葉のシヤムロック〔通は三葉四葉〕の形にエメラルドをあしらった高価な婚約指環をはめたときには場内はまさに興奮の坩堝と化した。いや、この痛ましい儀式の統轄者で、また砲口に縛りつけた夥しいインド土民兵を砲弾で吹き飛ばしておきながらまったく平然としていた峻厳なる憲兵司令官、陸軍中佐トムキンマックスウェル・ふレンチマラン・トムリンソンでさえも、そのときには一個の人間として溢れてくる感情を押えることはできなかった。彼はひそかに流した涙を鎧の籠手で拭い去ったが、たまたま光栄にもす

ぐそばに随員として居あわせた市民たちは、彼が口ごもりながら小声でこう述懐するのをふと耳にした――

——いやはや、あのあま、ときたひにやちよつとやそつとじゃお眼にかかれねえ別嬪じゃ。あのあまを見てるとやけに泣けて仕方がねえ、糞いまいましいが本当じゃ、なにしろライムハウス〔ロンドン東部、イーストエンドの一角。一番の貧民街〔訳〕〕にや皺くちやのビール樽が待っていると思うとな。

さて、そこで市民はアイルランド語のこと、市議会のこと、その他それに類するすべてのこと、自分たちの言葉〔古語〕もしゃべれない自称紳士（ショウ・ヒト）のことを話し始め、それにだれかから一ポンド金貨をせしめた〔参照三四〕というのでジョウが嘴を入れ、さらにブルームがいつもの調子で、ジョウにたかったニペンスの安葉巻〔四六〕の（参照）ことを持出し、ゲール語連盟やら、割勘同盟やら、アイルランドの癌である飲酒癖について話をする。奴がほんとうに話したいのは割勘のことだけさ。いやもう、奴ときたら酒と名のつくものならどんな酒でも底なしに飲ましてもらって、とどのつまりは自分ではひと泡もおごらないうちにあの世へ召されようっていう寸法なんだ。それにある晩俺は相棒といっしょに同盟の音楽の夕べに出掛けてみたが、唄えや踊れやのどんちゃん騒ぎ、「あの娘は乾草の上によく登った、俺のモーリン・レイはよく」というわけで、それにバリー（訳）リ禁酒会のブルー・リボンのバッジをつけ、アイルランド語を得々としてしゃべりまくる男がいるかと思うと、大勢の金髪娘がいて、無酒精飲料をもってあちこち動き廻り、またメダルやオレンジやレモン水やわずかな干からびた菓子パンを売っているといった有様、いやもう盛沢山な催し物だが、俺には説教無用。「禁酒のアイerlandは自由なアイerland」とはな。それからひとりりの老人がバグパイプを吹きはじめ、会場のいんちき奴郎どもが下手糞な演奏にあわせて腑抜けみたいに足を動かす。それにひとりかふたりの天国への案内人〔神父〕（訳）があたりに眼を光らせ、女性に対してけしからん振舞のないように監視している、いやらしいいたらありゃあしない。

それはそれとして話を戻すと、老鼯犬のやつ缶〔四六〕が空になったのを知って、ジョウと俺のそばを漁り歩きはじめる。

もし俺の犬なら、愛情をもって躰てやる〔四六〕んだが、うん、そうだとも。ときどき目の覚めるようなやつを一発くらわす必要がある、盲になる心配のないところにな。

——そんなにこわいかい、咬みつきやしないぜ、って市民がなあ、侮蔑の色を顔に現わして。

——いや、って俺はなあ。ただ犬が俺の脚を街灯柱と間違えやしないかと思つてな。

そこで奴は老耄犬を呼び寄せる。

——どうした、ギャリ？　って奴はなあ。

それからやつこさんがぐいとひき寄せ、思い切り揉みくちやにしてアイルランド語で話しかけ始めると、そのどでかい老耄犬のやつ、オペラのデュエットよろしく応答もどきの唸り声を挙げた。奴らが交わした唸り声は世にも珍妙な代物であった。誰か暇な者が、これぐらいの犬にも口籠くろうこ条例を適用すべきだと、「公益擁護者より」とサインしてあちこちの新聞に投書してやればいいんだ。唸ったり、ぶうぶういったり、渴かわきが眼にきて眼をすっかり血走らせ、おまけに狂犬病みたいに口の両端からぼたぼた涎が垂れている。

人間の文化を下級の動物の間に普及させることに関心のある者なら（しかもその数は無数）、以前はギャリオウエンの呼び名で知られ、最近広範囲の友人、知人によって改めてオウエン・ギャリ号と命名された、かの赤毛で老耄の名だたる猛猛なアイアリッシュセッターが披露した真に警嘆すべき犬人症状の数々をいやしくも見過すようなことがあってはならない。長年にわたる愛情による躰と、綿密周到な食餌方法の成果としての晴れの披露には、色々な芸当に混じって韻文の朗誦が含まれている。わが現存最高の音声学の大家（如何なる拷問に遭つてもその名は秘密にしておきたい！）がその朗誦された韻文を解明し比較検討するのにあらゆる手を尽した結果、それが古代ケルト民族の吟誦詩人の韻文と衝撃的な（傍点記者）類似を示しているのを発見するに至った。ただ、ここで問題にしているのは、美小枝の雅号によって身元を隠しているかの文人

が広く読書界に知らしめた甘美な恋歌のことではなく、むしろ（寄稿者D・O・C・が同業のさる夕刊紙に掲載された興味ある報告で指摘しているように）かの有名なラーフタリやドナルド・マッコンシディーンの皮肉な感情を吐露した諷刺詩に見られるもっと痛烈で、もっと個人的な韻律のことであって、現在世の注目を集めているもっと現代的な感覚のさる抒情詩人のことはいまさら指摘するまでもない。目下のところその名前を明すことのできない、さる著名な学者の手によって英訳された一例を最後にお眼に掛けることにするが、読者におかれては、かならずやその韻文の中の具体的な指摘は暗示以上のものであるとおわかりいただけることと思う。犬が朗誦した原詩の韻律組織はウェイルズの韻律法^{*}エングリンの複雑な頭韻、および同音節法を思い出させるもので、実際はもっとはるかに複雑なのであるが、少くとも本来の趣旨は充分に表現されていると、かならずや読者にもご同意いただけるであろう。またオウエン号の韻文が幾分ゆっくりと、また不明瞭に、押えにおさえた怨恨をうかがわせるような調子で読みあげられるならば、その効果は一段と原詩に近づくということを付加えるべきであります。

呪いにのろわれてあれ

七ケ日 毎日まいにち

水無しの七ケ日 木曜の今日のこと

おお 汝 バーニ・カーナン 「一七」よ

ひと口の水もなく

わが怒りは燃えにもえ

わが腸はちわたは狂い煮えくり返る

*
ロウリの舞台上に焦れて

そこで奴〔市民〕はテリ〔四四〕に犬に水を持ってくるようにいつけたが、いやもう、そいつが一気に飲み干す音は一キロ先からでも聞えるほどだった。するとジョウが市民に、もう一杯ほしくないかと訊ねた。

——友よ、喜んで、って奴はなあ、なにも根に持っていないことを判らせようとして。

いやもう、きやつときたらキャベツみたいな顔をしているが、見かけほどは御芽出度くはない。ジルトラップじいさん〔ガリテイ・マクドウェルの母の方の祖父。第二挿話参照〕の犬を連れてあちこちの居酒屋でぶらぶらしているながら払いはみな他人まかせだし、納税者と選挙権者の金でたらふく胃の腑を肥やす。人間も動物も大歓迎ってわけだ。そしてジョウがなあ——

——もう一杯いけるかい？

*泳げるのはあひる、かっていうのかい？ 　って俺はなあ。

——テリ、おなじのをもう一杯ずつ、ってジョウはなあ。ほんとうに喉を潤す必要はないのかい？ 　って奴はなあ。

——ほんとうに結構です、ってブルームはなあ。実はマーティン・カニングラム〔四三〕に会いたかっただけなんです、いいですか、可哀そうなディグナム〔三八〕のあの保険金のことです。マーティンが故人の家へ行くようにいったんですよ。いいですか、彼は、ディグナムのことですが、当時保険会社に証券担保の通知を出さなかったものですから、法令の条文によって、抵当権者は保険額から払戻しを得ることはできないのです。

——やった、って笑いながらジョウはなあ、シャイロックのじいじ〔後出のブリックマンの訳〕がしてやられたとなればそれこそ見物だ。それじゃ妻君がいちばん得することになる、どうだい？

——さあ、これは妻君の、ってブルームはなあ、情人たちが考えるべき問題です。

——だれの情人たちだつて？　つてジョウはなあ。

——いや、妻君の世話人たちのことです、つてブルームはなあ。

それから奴〔B〕は大法官が法廷で判決を申渡すような口調で、法令による抵当権設定者についてわけのわからぬことをまぐし立てて話をこんぐらかせたり、妻君の有利になるようにとか、抵当権者の権利は生ずるが、他方ディグナムはブリッジマンに例の借金がある、だからもしいま妻君つまり未亡人が抵当権者の権利を争うならとか、しまいには奴〔ディグナム〕の法令による抵当権設定者の話で俺は頭が混乱しちゃうんじゃないかと思った。奴〔B〕ときたらやけに運が好くて、あのとき自分では法令によってごろつきのいかさま師として捕まらなかったが、あれはただバックに有力な人物がいたからだ。パザーの入場券、いや、ええっと、ハンガリア国宮特典付き宝籤を売っていたんだ。本当の話さ。ちえっ、この俺さまならユダヤ人をとことん信用するなんて！　ハンガリア国宮の特典付き横領だ。

そのときポブ・ドーラン〔四六〕がよたよた陰眼めきながらやってきて、ミセス・ディグナムに、不幸があつて残念でした、葬式に出席できなくてほんとうに残念でしたと伝え、彼や故人を知っていたすべての者が死んだ可哀そうな「ウィリちゃん」〔四一〕ほど誠実でいい男はいなかったといっていたと伝えてほしいとブルームに頼む、伝えてと。息もつかせず愚にもつかぬことを並べ立てる。それからブルームの手をとって握手しながら、いかにも悲しげな様子をしてこのことを伝えと。友よ、握手しよう。お前さんもごろつきだが、俺さまもごろつきさ。

——交際期間だけを基準にして考えれば、と彼はいった、いかにも短い間柄のように思われるかも知れませんが、実際はふたりの間柄はそうあってほしいと希望し、またそうだと信じているのですが、お互を尊重する気持のうえに築かれておりますので、誠に勝手ですが敢えてこのようなお願いをする次第です。しかし、万が一にも私の行動が礼を失している場合には、私の誠意ある心に免じて失礼の段お許しのほどお願い致します。

——どういたしましたして、と相手は返答した、私はそのような行動に走らざるを得なかったあなたさまの真情には心から敬服いたします。なるほど私が委嘱された責務は哀悼の意を伝えるということではありますが、あなたさまに衷心より信頼されているというこの確証によって多少なりとも苦杯が和げられると考え、喜んで負託にお応えいたします。

——ではお手をしっかり握らせていただきます、と彼はいった。この悲しい気持を伝える適確な表現は、私が拙い言葉でくぐくぐ述べるよりもかならずやあなたのお優しい心根から自然に生れて参りましょう。第一私は深い悲しみのために、その感情を言い表わそうとしてもとても言葉にはなりませんまい。

——こういうと奴はその場を立って、真直ぐに歩こうとしながら出ていった。まだ五時だというのにもう酔払って。あの晩、バディ・レナドが一四Aのお巡りと知合いでなかったら、やっこさんすんでのところで豚箱にぶち込まれるところだった。ブライド・ストリート〔D市南岸、D政庁の西方を南北に走る通り〕のもぐり酒屋で、閉店時間後へべれけになって、ふたりの淫売と密通している間、いもが外で眼を光らせている、ティー・カップで黒ビールをがぶ飲みする。そして淫売たちに自分をフランス人ジョーゼフ・マニョオと触れ込み、おまけにカトリック教会の悪口を並べたてる、やっこさん子供のように、アダム・アンド・イーヴ教会〔参照〕で敬虔に目を伏せてミサの待者を勤めたというのに、新約宝典〔新約〕を書いたひとは誰だい、また旧約宝典を書いたのは誰だい、なんていったり、抱きついたり、ズロースを脱がしたり。それからふたりの淫売はどう仕様もないお馬鹿さんというわけで、やっこさんのポケットから掏取って腹の皮をよじらせて大笑いしたり、またやっこさんベッドの上いっぱい黒ビールを吐き散らしたり、はてはふたりの淫売が笑いながらお互に金切声でいい合う。「あなたの宝典はどう？」「あなたの旧宝典持ってる？」 たまたまそこらへバディが通りかかったからよかったものの、えらいことになるどころだった。それなのにやっこさん、日曜ともなると小柄の曰くつきの妻君と一緒にちゃんと教会に、しかも妻君ときたらさすがにエナメル革のブーツをはき、お気に入りの蕁を胸にあしらってお淑やかそのもの、貴婦人然と、尻を振りふり礼拝堂の座席

間通路を歩いていく。ジャック・ムーニ〔参照四〕の妹。そして菴婆のお袋のやつ、振りのアベックに時間決めて部屋を貸して〔同上〕。いやはや、ジャックのやつがやっこさんにきちんと仕末をつけさせたんだ。蒔いた種を刈取らないなら、いいか、思いっきり尻つぺたを蹴とばしてくるぞっていいってな。

そこでテリ〔一九〕がジョッキ三杯のビールを持ってきた。

——乾杯、ってジョウがなあ、主人役を買ってでて。市民、乾杯。

——君の息災を、って奴はなあ。

——ジョウ、大いに儲けてくれよ、って俺はなあ。市民、健康を祝して。

いやはや、奴ときたらもう半分飲んじまった。奴の飲み代ときたひにゃ、いくら儲けたって足りゃあしない。

——アルフ、あののっぽの奴〔三六〕が後押ししている市長候補はだれだい？

——お前さんの友達だよ、ってアルフはなあ。

——ナンかい？ ってジョウはなあ。偽員の？

——ここに名前は出さないが、ってアルフはなあ。

——なるほどそうか、ってジョウはなあ。俺はついさっき、奴が例の集り〔一七〕に、ほら博労の、国会議員のウィリアム・フィールドといっしょに出席してるのを見掛けたぜ。

——毛むくじやらのイオバス、って市民はなあ、あの活火山、世界の寵児で、自国のアイドル。

そこでジョウが口蹄疫〔一七〕について、博労について、その問題で手を打たなきゃならないことについて市民に話し出すと、市民の奴そんなことはいっさい取り合わなかったが、ブルームは例によって疥癬治療の洗羊液やら、咳に悩む仔牛の気管支炎治療の水薬やら、腫舌症に絶対効目のある薬やらを披露に及んだ。というのも、奴は一時廃馬屠殺場にいたことがあ

ったからだ。手帖と鉛筆を持って動き廻り、いっばしのつもりであれこれ口出ししていたが、とどのつまりは牧畜業者に横柄な口をきいたというのでジョウ・カフ〔三九〕にくびにされちまった。知ったか振り野郎。釈迦に説法とくる。小便おやじのバーク〔四七〕の話では、ホテル〔同上〕で奴の妻君はときたまミセス・オウダウド〔同上〕に苦情を打明け、二十センチもの脂肪を波打たせながら眼がつぶれるほど散々泣いて、涙の洪水に浸っていたということだ。妻君がおならをするためにコルセットの紐を緩めようとした途端に、どろんとした眼〔四三〕の奴、どうしたらいいか教えてやろうと彼女のまわりでうろちよろしていた。お前さんの今日の話題はなんだい？ そうか。無痛動物治療法だな。そこで、可哀そうに動物たちが苦しんでいるからとか、専門家の先生がおっしゃっているしとか、動物に苦痛を与えない現在最良の治療法だとか、患部にそつと薬を付けるとか。いやもう、奴ときたらそつと忍んで雌鶏の腹の下からまんまと卵をせしめる男だ。

ガ、ガ、ガラ。コッ、コッ、コッ。黒いリッツはわが家の雌鶏。たんまり卵を産んでくれる。卵を産むときゃあ大喜び。ガラ。コッ、コッ、コッ。そこへお人好しの伯父さんのレオ〔レオポルド・B〔説〕〕がやってくる。伯父さんは黒いリッツのお腹の下に手を突込んで、産み立ての卵をちよっくら失敬する。ガ、ガ、ガ、ガ、ガラ。コッ、コッ、コッ。

——とにかく、ってジョウはなあ。フィールド〔二一〕とナネティ〔二二〕は下院の議場でそのこと〔口發〕で質問するために、今晚ロンドンへ立つことになっている。

——ほんとうに、ってブルームはなあ、市会議員さん〔ナネティ〕出掛けるんですか？ ちょうど議員さんに会う用事があったんですが。

——そうよ、今晚、ってジョウはなあ、郵便船でお出掛けなんだ。
——これは弱りました、ってブルームはなあ。たつての用事があったのですが。ミスタ・フィールドだけが出掛けるんじゃないんですか。いま電話は無理ですね。そう。おっしゃることに間違いはありませんか？

——ナンンも行くんだ、ってジョウはなあ。連盟が奴に警察部長が「フェニックス・」パークでのアイルランドの民族競技を禁止したことについて、明日緊急質問をするように依頼したんだ。市民、お前さんこのことをどう思うかね？ 愛蘭士愛国団としては。

ミスタ・オナゴベコ・コサクチ（マルティファーム区。ナシヨナリスト党）——同僚であるシレイラ選出議員の質問に関連して総理にお訊ねしますが、政府は症状に関する医学的証拠が整っていないにも拘らず、問題の家畜を屠殺せよとの政令を発せられたのでありますか？

ミスタ・ヨツアシ（タマシャント区。保守党）——議員諸君は下院の委員会に提示された証拠をすでに所持しておられる。私としてはそれにさらに有意義な証拠を付加えることはできないと思う。よって、只今の議員の質問に対するお答えはイエスであります。

ミスタ・オウレリ（モンティノット区。ナシヨナリスト党）——フェニックス・パークでアイルランドの民族競技をあえて実施しようとする人間家畜を屠殺せよとの同種の政令が発せられましたか？

ミスタ・ヨツアシ——それに対するお答えはノーであります。

ミスタ・オナゴベコ・コサクチ——かつて総理が引用されて物議を醸したミッチェルスタウンの報告電報がさきの大蔵省の方針決定に影響を与えましたか？（やい！ やい！）

ミスタ・ヨツアシ——只今のは予定された質問の中には入っておりません。

ミスタ・チンプウィット（バンカム区。インディペンデント党）——「必要なら銃を使え」。

（反対派が皮肉に拍手喝采する）

議長——静粛に！ 静粛に！

(閉会。拍手喝采)

——ゲールの民族スポーツを、ってジョウはなあ、再興した人物、それがこの男だ。その当人がここに坐っている。ジェ
イムズ・ステイヴンズの脱獄を助けた男。もと十六ポンド投石競技の全アイルランド・チャンピオン。市民、あんたの最
長記録はどれくらいだい？

——そんなことはどうでもいいさ、って市民はなあ、いかにも控え目な態度を装いながら。まあだれにもひけを取らない
時代があったよ。

——握手だ、市民、ってジョウはなあ。そうだと、筥棒に強かったぞ。

——それはほんとうかい？ ってアルフはなあ。

——そうですね、ってブルームはなあ。知らない人はいませんよ。あなた知らないのですか？

——そこで見なはアイルランドの民族スポーツについて、ローン・テニスに類する自称紳士向きの競技や、ハーリング〔二四〕に
ついて、投石競技や土俗的なものや「ふたたび国家」を建設すること、その他いつもの問題について論じ始めた。そしても
ちろんブルームにも自分の言い分はあった、スポーツ心臓の場合には激しい運動は体に悪いと。俺は豚の尻尾にむかって断
言するが、床のやつから葉を拾って、ブルームにこういってみろよ——「見てみろよ、ブルーム。ほら、葉だ。これは葉だ
ぜ」。するとやつこさん、必ずやそのことで一時間しゃべり続ける、例によって、しかもいつときも休まずにな。

民族発展のための、古代ゲール族のスポーツの再興と、古代ギリシアと古代ローマと古代アイルランドで盛んであった体
育文化の重要性についてきわめて興味深い討論会が、愛蘭土愛国団〔二四〕主催のもとに、リトル・ブリテン・ストリート
〔D市北^北ケイベル・ストリートか
ら西に入るもつとも北の通り〕のパーニ・オウカーナン〔参照 二一八〕の懐古堂で行われた。この名譽ある団体の会長の有難き司会
を得、また参会者もきわめて多数に及んだ。議長の意義深い講演は楚に力強く、切々とした堂々たる演説であったが、それ

が済んでのち、わが古代汎ケルト族の父祖が親しんだ古代競技やスポーツ再興の可能性の有用性について、いつもながらのすぐれて高度な、きわめて興味深くかつ有益な討論会が続いて行われた。わが古来の言語の高名にして広く尊敬されたる擁護者、ミスタ・ジョウジフ・マッカーシイ・ハインズはフィン・マックールが朝に夕に楽しんで古代ゲール族のスポーツと遊戯を、古代から現代のわれわれに伝えられた男性的な逞しさと力に満ちみちたこよなき伝統の数々を再興することを目途として、復活せしめようとの真情あふるる訴えを行った。L・ブルームは反対命題を開陳し、讃否混りあった聴衆の喧叫を浴びたので、声楽家の議長は、大入りの会場のいたるところから出された度重なる要求と熱誠あふるる拍手喝采に應えて、不滅のトマス・オズバン・デイヴィスのいつまでも新鮮さを失わぬ詩（有難いことに広く人口に膾炙しているので、いまだらここで記憶を喚び起すまでもない）「ふたたび国家」^{三五}のきわめて注目すべき独唱によって討論会を閉幕させたが、当の愛国の古強者^{つわもの}は歌唱にあたって、異論の余地なくいつにないすばらしい出来栄を示したということが出来る。このアイerlandのカルソー^{*}ガリバルディはまさに絶好調で、その朗々たる声は、わが市民のみが唱いうることく唱われたかの由緒ある祖国讃歌によってその長所をいかなく發揮した。彼の見事な第一級の発声はそのすぐれた特色によって、すでにえられた世界的な名声をいやが上にも高めたのであるが、操觚界や法曹界や他の学界を代表する面々のみならず、数多の著名な聖職者の顔が混じる大勢の聴衆のやんやの喝采を浴びた。会の議事はこれをもってすべて終了した。

ご出席の聖職者の中には次の方々がおられた——イエズス会士、法学博士ウイリアム・デイレイン学長、神学博士ジェラルド・モロイ院長、聖霊会士P・J・キャヴァナ師、代理主任T・ウォータース師^{一九〇四年当時、D市南東部外ブラックロ、ツクの洗者ヨハネ・カトリック教会居住}、主任司祭ジョン・M・アイヴァズ師^{一九〇四年当時、D市の聖パウロ・カトリック教会の代理主任で、主任司祭ではない}、フランシスコ会士P・J・クリアリ師^{ID市のアダム・アンド・ドミニコ会士L・J・ヒッキイ師}、カプチン修道会士ニコラス師^{ID市のカプチン修道院、天使の司祭地方代理}、ドミニコ会士L・J・ヒッキイ師^{D市のドミニコ会士}、カプチン修道会士ニコラス師^{D市のカプチン修道院、天使の司祭地方代理}、ドミニコ会士L・J・ヒッキイ師^{D市のドミニコ会士}、カプチン修道会士ニコラス師^{D市のカプチン修道院、天使の司祭地方代理}、イエズス会士T・マリア師^{D市の聖フランシスコ・ザベ、リオ・カトリック教会居住}、イエズス会士

ジエイムズ・マーフィー師〔D市の聖アウグスチノ修道会付属聖アウグスチノ・聖ヨハネ聖堂管区長〔祝〕〕、司祭地方代理ジョン・レイヴァリ師〔D市西部外ファイブズベラのラザリス〕、神学博士ウイリアム・ドワアティ師〔D市のカトリック無〕、ミニム会士ビータ・フェイガン師〔D市のキャソリック・ユニ〕、聖アウグスチノ会士T・ブランガン師〔D市の聖アウグスチノ修道会付属聖アウグスチノ・聖ヨハネ聖堂居住〕、代理主任J・フレイヴィン師〔無原罪大聖堂居住〕、代理主任M・A・ハケット師〔D市北部フィンクラ〕、代理主任W・ハリリ師〔D市の聖ヤコブ・カ〕、モンシニョール・司教総代理マクマナス師〔D市の聖ナ・カトリック〕、オブレート会士B・R・スラタリ師〔架空の〕、主任司祭M・D・スキヤリ師〔D市の聖ニコラス〕、ドミニコ会士F・T・パーセル師〔D市の聖ニコラス〕、主任司祭兼参事会員ゴーマン師〔D市の聖ミカエル・聖ヨハ〕、代理主任J・フラナガン師〔D市のカトリック〕。平信徒にはP・フェイ〔D市で教習商P・A・〕、T・クワーク〔D市フレデリック・ストリートに事務所を持つ事務弁護士トマス・G・の〕などが含まれていた。

—— 激しい運動〔二五〕といえは、ってアルフはなあ、君は例のキョウ対ベネットの試合を観たかい？

—— いいや、ってジョウはなあ。

—— 誰それさんはそれでまるまる百ポンド当てたってさ、ってアルフはなあ。

—— だれがだい？ ブレイゼズかい？ ってジョウはなあ。

—— するとブルームがなあ——

—— 例えは、僕がテニスについていいたいのは眼の敏捷さと訓練ですよ。

—— ああ、ブレイゼズさ、ってアルフはなあ。奴は賭率を吊りあげるために、わざとマイラ〔のキョウ〕が酒漫りになつてなんて言いふらしたのさ、本当は終始トレーニングを怠らなかつたというのにな。

—— みんな奴のことは知ってるさ、って市民はなあ。裏切り者の息子とぐるだからな。どうしてマイラのポケットにイギリス金貨がころげ込んだかみんな知ってるぜ。

——そのとおりだ、ってジョウはなあ。

するとブルームがローン・テニスと血液の循環のことでまたしても横から口を出し、最後にアルフに訊ねた——

——で、パーガン、あなたはそう思いませんか？

——マイラは相手をこてんぱんにやっつけたんだ、ってアルフはなあ。あのヒーナン^{*}対セイヤーズの試合なんて、これに比べると子供騙し^{だま}みたいなものさ。猛烈なやつを一発くらわせたもんだ。まあ想像してみろよ、小男^{ちび}の方が相手の臍にも届かないものだから、大男ときたひにゃ空振りばかりしてさ。いやはや、やっこそん相手の鳩尾^{せおち}に止めの一撃をくらわせてな。クイーンズベリ・ルールやなんか糞くらえと、相手に食べたこともないようなものを吐き出させたんだ。

マイラとパーシイが五十ポンドの賞金を争ってクラブを交えることになったとき、それはまさに歴史に残る、世紀の一戦であった。わがダブリンの秘蔵っ子は体重不足というハンディにも拘らず、それをリング上の絶妙なテクニクによって見事にカバーしたのである。終盤での秘術を尽した打合いによって、双方のボクサーは精も根もつき果てたのであった。ウェルター級の特務曹長はその前のラウンド〔^{第一ラ}ラウンド〕における乱戦の際に相手に激しい出血を与えたが、その間キョウの方はというと棒立ちのまま左右の連打を浴び、砲兵は秘蔵っ子の鼻柱に的確なパンチを見舞ったので、マイラは前にながらもグロッキーといった格好であった。次のラウンドでは、兵隊は強力な左ジャブを皮切りに攻勢に出たが、アイルランドの闘技者もベネットの顎先めがけて強烈なストレートで応酬。英国軍人はそれをダッキングで逃れたが、ダブリン児は相手に左フックを見舞い、ポディに見事なパンチを炸裂させた。ふたりはクリンチになった。マイラはすぐさま立て続けにパンチをくり出しまったく敵を圧倒したので、ラウンドの終りには、マイラの猛攻の前に大男はただロープに身を委ねているだけであった。英国人は右眼がほとんどつぶれていたが、自分のコーナーに戻るとたっぷり水を浴び、ゴングが鳴るとともにいきいきと勇氣百倍、いまにもエブラナ〔^{二八}二八〕人のボクサーをノックアウトしてくれるぞといわんばかりに意気揚々と進み出た。

それは相手を倒さずには置かない宿命の対決だが、けっきょく勝利は強者が握るものである。ふたりは龍虎の決戦を挑み、場内の興奮も熱狂その極に達した。レフェリーは強打のパーシィに二度ホールディングの警告を与えたが、秘蔵っ子の方はなかなかの試合巧者で、またそのフットワークはちょっとした見物であった。激しい返礼の交換が行われ、軍人の見事なアッパーカットが相手の口から大量の出血を強いたが、その直後に秘蔵っ子は俄然敵の全身に猛攻を加え、闘志のベネットの鳩尾に強烈なレフトを見舞い、たちまち相手を床に埋めてしまった。目の覚めるような鮮かなノックアウトであった。異常な緊迫感のなかでポーターペロウ連隊〔D市の南、ラスマインズ〕の拳闘家のカウントが呼び上げられていたとき、ベネットのセコンドの老ボツツ・ヴェットシユタインがタオルを投げ込み、その結果サントリ村〔現在のD市最北〕の青年の勝利が宣告されたが、そのときの観衆の熱烈な歓声は大変なもので、はては熱狂のあまりわれ先にローブをくぐり抜けてリングに駆けのぼり、勝利者を揉みくちやにするほどであった。

——奴〔ボーイ〕は自分の利害得失には抜け目がないんだ、ってアルフはなあ。聞くところによれば、今度は北部の演奏旅行のマネージャーをやってるらしい。

——そのとおり、ってジョウはなあ。たしかそうだ。

——だれがですか？　ってブルームはなあ。ああ、そうです。それに間違いありません。そうです、まあ夏の演奏旅行みたいなものですよ。ちょっとした休暇なんです。

——ミセス・Bは「あの輝く星」〔「終りよければすべてよし」の九七行〕^{スター}「じゃないかな？　ってジョウはなあ。

——家内のことですか？　ってブルームはなあ。そうです、家内は歌うんです。今度の旅行も成功すると思えますよ。あの男は何しろすぐれた企画者ですから。すぐれたね。

へっへっへ、いやまったく、って俺は心の中でいう、俺はいう。そりゃあ赤坊にはお髭がないよ、天気の良い日にゃ雨降

らないの道理さ。〔「ご尤もな、あまりにもご尤もなB」のひとり合点を皮肉った「訳」〕。ブレイゼズの奴、ぼうぼう尺八を吹き鳴らす。演奏旅行とはな。アイランドブリッジ〔D市のフェニックス・パーク〕の近くに住む、ぺてん師の息子いんちきダンは、ポーア人との戦争〔ポーア戦争（一八九〇—九一）〕のためにおなじ馬を二度政府に売りつけたんだ。なんだなんだ野郎。ミスタ・ポイラン、救貧税と水道料金の集金に参りました。君がなんだって？ ミスタ・ポイラン、水道料金の集金に。君はなんだなんだって？ こんな奴にやれるとしたらあの女の企画ぐらいなものさ、ほんとに。これはまる秘、まる秘。

* カルベの岩山の誇りなるトゥイーディの黒髪の娘。枇杷と扁桃の薫りあたりに満つるかの地にて、類なき美女に育ちぬ。アラメダ公園その足音を聞覚え、中庭の橄欖樹は敬意を表し身を屈む。そはレオポールドの貞淑なる配偶者にして、豊満なる胸のメアリアンなり。

しかして見よ、色白く、かつまたやや赤らめる顔ばせしたる眉目秀麗なる英雄にして、法律に明るき王室顧問オモロイ一族の者、しかしてその者とともに見舞われ高きランバート家の王子にして世継ぎなる者連れだちて這入り来りぬ。

— やあ、ネッド。

— やあ、アルフ。

— やあ、ジャック。

— やあ、ジョウ。

— 神の祝福を、って市民はなあ。

— お前さんこそ、ってJ・J・はなあ。何にするね、ネッド？

— 中を頼む、ってネッドはなあ。

— そこでJ・J・は飲物を注文した。

——ふたりとも裁判所に行っていたのかい？　ってジョウはなあ。

——そうだよ、ってJ・J・はなあ。ネッドのやつがうまくやってやるってさ。

——そうなればなあ、ってネッドはなあ。

さて、このふたりは何を企んでいたのかな。J・J・は相棒を総合陪審員候補者名簿から外してやり、相棒は奴の尻拭いをしてやる。奴「ネッド」の名前がスタブズ「週報」にのっている。トランプ賭博をしたり、粋な片眼鏡のきざな洒落者たちと親しくつきあったり、シャンペンを飲んだりしておりながら、そのくせ債権取立て書と差押え令状で半分首が廻らなくなっている。俺が、長靴を五二受けしようとしていた小便おやじ「二三」といっしょにフランス・ストリート〔D市南岸。トマス・ストリートからクーム街路へ、南北にのびる通り〕のガミンズ〔P・C・D市で手広く質屋を経営していたメアリ・C・夫人の關係者〕のところへいって来たとき、帳場には奴を知っている者はだれもおるまいというので、金時計を質に入れていた。あなたのお名前は？　オチブレンです、って奴はなあ。そうだと、どんだ、って俺はなあ。いやもう、奴はそのうちにもさっちも行かなくなるぞ、きつと。

——お前さん裁判所のあたりでキ印のグリーン〔三六〕を見かけたかい？　ってアルフはなあ。例のU・P・、アップ破滅〔同上〕さ。

——うん、ってJ・J・はなあ。私立探偵〔一三七〕を探してたよ。

——そうか、ってネッドはなあ、やっこさんときたら無鉄砲にもじかに法廷に提訴しようとしたんだが、コーニ・ケラハ〔四〇〕がまず筆跡鑑定をしてみらうようにいいくるめたんだ。

——一万ポンド〔三六〕か、ってアルフはなあ、笑いながら。判事と陪審員の前でやっこさんが陳述するのを聞くためだったら何も惜くないね。

——アルフ、お前さんが犯人だっというのかい？　ってジョウはなあ。真実、完全なる真実、真実だけを、*ジミ・ジョンソンも照覧あれ。

俺がかい？ 　ってアルフはなあ。俺にお召しを着せるのはよしてくれ。

あなたがこれから述べることはすべて、ってジョウはなあ、あなたに不利な証拠として記録されることがあります
〔知秘権告〕。

——もちろん、告訴はありうる、ってJ・J・はなあ。だが、予想される結果は原告は精神健全ならずということさ。U
・P・、^{アップ}破壊だからな。

——健全なんて糞くらえだ！ 　ってアルフはなあ、笑いながら。お前さん奴がいかれてるのを知ってるかい？ あいつの
でっかい頭を見てみるよ。日によっちゃあやっこさん、靴篋で帽子をかぶらなきゃならないことがあるってことを知ってる
かい？

——もちろんさ、ってJ・J・はなあ、だが法律の上からは、名誉毀損の事実を証明しても、それは公に毀損を行ったこ
とに対する告発の弁護の根拠とはならないんだ。

——やい、やい、アルフ〔ひとを気遣いだと言ったアルフ〕、ってジョウはなあ。

——ですが、ってブルームはなあ、あの可哀そうな婦人、つまり彼の奥さんのことですが、あの婦人のことを考えると。

——彼女は気の毒なものさ、って市民はなあ。いや、どっちつかずの男〔不能者〕と結婚する女はみんな。

——なにがどっちつかずなのですか？ 　ってブルームはなあ。まさかあなたは彼が……

——俺がいうのはどっちつかずということだ、って市民はなあ。鳥でもないし、獣でもない者。

——それに蝙蝠でもない、ってジョウはなあ。

——俺がいたいのはそのことだ、って市民はなあ。わかるまいが、要するに憑かれた男っていうことだ。

いやまったく、俺はひと悶着ありそうなのを見て取った。するとブルームの奴、なぜ可哀そうな婦人といったかという

と、あんな吃りで間拔けな老筆のあとからあちこち歩いて廻らなければならぬなんて、妻君にとっちゃ酷な話だといったかったのだと説明した。あんなすかんびんのブリーンの奴を、天が同情の涙を降らせるほど、顎髭に蹴躓きながらあっちこっち歩くままにさせておくなんて、実際これも「動物愛護」とはいえない。ところが当の妻君ときたら、旦那の親父の従兄が法王庁の坐席案内人〔架空の職〕とかであったというので、結婚してからというものは鼻たかだかの有様。壁には愛蘭土戦士風カイゼル髭をはやしたその人物の肖像。サマーヒル〔ミース郡の郡都トリムの南東八キロの村。地方警察本署がある〕出身のマカロニ人で、教皇付き志願兵団員シニョール・ブリニ〔ブリニンのイタリ〕は河岸通りからモス・ストリート〔ジョージズ河岸通りとシテイ河岸通りの境から南に入る貧民街〕へ引込んだ。

ところが奴はどんな人物だったか、というと。どこの馬の骨だかわからねえ男で、二間統きの裏部屋を週七シリングで借り、ときには胸当て飾りよろしく、べたべた勲章をぶらさげて世間の眼を驚かす。

——だがさらに、ってJ・J・はなあ、葉書を出したということは公表したということだ。サドグロウウ対ホウルの試訴においては、そうしたことが犯意の充分な証拠と見做されたのさ。俺の見解では告訴はありうると思うよ。

報酬六シリング・八ペンスいただきやす、か。お前さんの法律上の見解なんかだれが聞きたいもんか。そんな固い話はやめて皆で飲んだほうがいい。いやはや、これじゃあゆっくり飲ましてももらえねえや。

——さあ、ジャック、乾杯、ってネッドはなあ。

——ネッド、乾杯、ってJ・J・はなあ。

——おや、また奴だ、ってジョウがなあ。

——どこだ？　ってアルフはなあ。

するといやまったく、あれ、あの男が本を小脇に〔三六〕戸口の前を通りかかった、妻君は奴のそばを、それにコーニ・ケラハ〔三一〕がいっしょに店の前を通りすぎるときぎよろっと中を覗き込み、親父さんみたいな口調で奴に話しかけて中古

の柩ひつぎを売りつけようとしていた。

——例のカナダの詐欺事件はどうなったかい？　ってジョウはなあ。

——判決保留さ、ってJ・J・はなあ。

ありゃあ鉤鼻同盟の一員だった、サファイアロウ〔ユダヤ人特有の名前「訳」〕ことスパークことスパイアロウことジェイムズ・ウォウトなんて自ら称していた、二十シルでカナダへの渡航券をやるっていう広告を新聞に出したんだ。なに？　俺をそんな間抜けだと思ふか？　もちろん、ぺてんもいいところさ。なんだってまた？　ミス郡〔D郡の北西に隣る郡。平坦で豊かな自然に恵まれ、狐及び鹿狩りで有名「訳」〕のおさん、ども田吾作も、そうだとも、それに自分と同じ同盟の連中も根こそぎ騙りやがったんだ。J・J・の話では、モーセさまに誓って、二ポンドばくられましたと、帽子をかぶって〔ユダヤ人は宗教的な行事のとき、天に対する尊敬のしるしとして必ず帽子をかぶる「訳」〕涙を流していたザレツキイとか何とかいうユダヤ人の老人がいたということだ。

——誰がその事件を審理したんだい？　ってジョウはなあ。

——勅任判事さ、ってネットがなあ。

——可哀そうに、よぼよぼのサー・フレデリックときたら、ってアルフはなあ、指一本で丸め込められるんだからな。

——海みたいに広い心の持主さ、ってネットはなあ。家賃が滞り、しかも子供が大勢いるというのに妻君が寝込んでるなんて悲しい身の上話をしてみろよ、それこそやっこさん判事席で泣きくずれるぞ。

——そうよ、ってアルフはなあ。ルーベン・J・の奴、まったくついていたとしかいようがない、先日かわいそうに、あそこのバット橋〔オウコヌル橋のひとつ下流「訳」〕のたもとで市の石材置場の番人をしている小男のガムリなんかを告訴したというのに、被告席にぶち込まれなかったんだからな。

——そういうと奴は老勅任判事を真似て泣くふりをし出す——

——まったく慨嘆に堪えぬことだ！ 可哀そうにこの男は身を粉にして働いているというのに！ 子供が何人だって？ 十人ていったか？

——はい、閣下。それに家内がチフスにかかっておりますので！

——おまけに腸チフスの妻君！ 慨嘆に堪えぬ！ さあ、原告、直ちに法廷を去りたまえ。原告、絶対に支払い命令は出しませんぞ。原告、なんだってまた告発なんかして、支払い命令を出してくれなんて願い出たりするんだね！ 可哀そうに身を粉にしてあくせく働いているというのに！ 本件は却下する。

しかして「〔第七日曜日〕の次の日曜日」女神ユーノーの月〔六月〕の十六日にして、「〔聖なる分ちえぬ三位一體〕」の祝日〔聖靈降臨祭後一九〇四年は五月二十七日〔祝〕〕

後の第三週〔當り、天の郎女なる新月の時あたかも上弦にありしとき、かの判事閣下ら法の殿堂に赴きぬ。そこにてはコートウニ殿自らの法廷を主宰して判決をくだし、またアンドルーズ判事殿陪審員不要の遺言検認のため〕の法廷を主宰し、死亡したる葡萄酒商、いまは亡きジェイコブ・ハリデイの不動産および動産に關して提出されたる遺言

状と遺言によりて指定されたる最終的な處分方法に關する、財産筆頭管理人対精神薄弱なる幼児リヴィングストンならびに他の一名の権利要求をよくよく勘案し、熟考せり。かくてグリーン・ストリート〔キング・ストリート・ノースからリトル・グリーン・ストリートに至る通り〔祝〕〕の嚴肅な

る法廷にサー・フレデリック・鷹フオコウチ匠は到着せり。しかして判事は五時頃出廷し、ダブリン市郡において、また市郡のため

に催さるべきあらゆる用件および當事者のための委員會において、ブレホン法〔古来の大法典。九世紀より以前に制定され、一六〇〕を施行すべく法廷を主宰せり、しかして判事とともに、イアルの十二の部族からなる最高議会の面々が着席せり、あらゆる部族

につき一名の代表者、パトリック族の、ヒュー族の、オウエン族の、コン族の、オスカ族の、ファールガス族の、フィン族の、ダーモット族の、コーマック族の、ケウイン族の、カオルタ族の、オシアン族の代表者らすべてで十二名の善男勇士がおれり。しかして判事殿は「〔十字架上にて死に給える御方〕」にかけて、この殿ばらの主君なる国王と在廷の被告との間で係

争中の事件に關して正しき答申を行うべく誠心誠意つとめ、神に誓いて、聖書に接吻を、証拠にもとづき正しき評決をくだすべきことをみなに懇願せり。かくて一同、イアルの十二の部族の代表者座席より立上がり、しかして「永遠に」〔欽定訳「詩篇」90―120〕まします神のみ名にかけて「神の義」〔イ16―133〕を行うことを誓えり。しかしてのち直ちに獄吏らは、某所より入手したる情報にもとづきて敏腕刑事の逮捕せるひとり男を城中の地下牢よりひき出しぬ。しかして獄吏ら囚人の手足を鎖にてしぱり、悪人なりしがゆえに囚人に保釋金ならびに保證人による保釋を許さず、むしろそを告發せり。

――奴らときたらほんとうに結構な連中さ、って市民はなあ、はるばるアイルランドまでやって来て国中を虱だらけにしやがるんだからな。

そこでブルームは馬耳東風をきめ込んでジョウと話し始め、そんなこと〔Bに対する借金（第七）挿話参照〕〔訳〕は月初めまでは気にするには及ばない、ただ、出来ればミスタ・クロフォードにひとこと口添えをしてもらいたい、といった。するとジョウはあれこれ繰返し神に誓って、どんな骨折り仕事でもやりやすといった。

――あなたもご存知のように、ってブルームはなあ、広告というものは何度も何度も繰返し出す必要があるんですよ。それが秘訣のすべてなんです。

――この俺さまにまかしたときなさい、ってジョウはなあ。

――奴らときたら、アイルランドの小作農や、って市民はなあ、貧民から巻き上げやがって。わが家によそ者なんかもう沢山だ。

――ああ、ハインズ、きつとうまくゆくでしょう、ってブルームはなあ。いいですか、それこそあのキーズが問題なんですよ。

――大船に乗ったつもりで、ってジョウはなあ。

——ご親切にどうも、ってブルームはなあ。

——よ者なんて、って市民はなあ。俺たちの責任だ。俺たちが奴らの侵入を許したんだ。俺たちが手びきしたんだ。例^{*}の姦婦とその情夫がこの国へサクソンの泥棒どもを手びきしたんだ。

——つまり、仮判決だったのさ、ってJ・J・はなあ。

そこでブルームは取るに足りないもの、部屋の隅の樽のうしろに張った蜘蛛の巣にそれこそえらく興味があるようなふりをして、市民はそのブルームを睨みつけ、足もとの老耄犬はだれにいつ噛みつけばいいかを知ろうと主人の動向を伺っていた。

——ひとりの不貞をはたらいた妻、って市民はなあ、それがこの俺たちのすべての不幸を招いた元兇だ。

——ちよどここにその女がいるぜ、ってカウンターのところでテリ^[二三]といっしょに『犯罪新聞』を読みながらくす笑っていたアルフがなあ、いざご出陣とめかし込みやがって。

——ちよっとその女の写真を拜ませてくれよ、って俺はなあ。

で、それはどんな代物かと思いきや、たかがテリがコーニ・ケラハ^[三二]から借りた卑猥なヤンキーの絵入り新聞だった。男根をでかくする秘訣。社交界の花形の不倫。シカゴの建築会社経営者、富豪ノーマン・W・タッパは、美人だが不身持の妻君が自宅で警察官のテイラーの膝の上に抱れているのを知る。ブルマー姿の美女が不貞の振舞いにおよび、いろはいろで相手の敏感な個所を探し廻っていたところへ、とつぜんノーマン・W・タッパがはじぎを持って踏み込んだが、如何せん、ちよど妻君は警察官のテイラーと輪投げ遊びを楽しんだあとであった。

——おや、おや、ジュニ^[雑誌の写眞]、ってジョウはなあ、お前さんの下着はやけに短いなあ！

——ジョウ、毛があるから大丈夫さ、って俺はなあ。このむっちりしたやつから尻肉のコーンビーフがこっぴり取れるぜ。

そこへ誰あろう、ジョン・ワイズ・ノランと、そのうしろからレネハンが待ちぼうけを食らったような浮かぬ顔をして入ってきた。

——おい、って市民はなあ、戦場の最新情報はどうだい？　いかさま連中は市役所での幹部会で、アイルランド語についてどんな決定をしたのかい？

輝ける甲冑に身を固めたるオウノランは、權勢を誇り際猛き全愛蘭土の首長に深く身をかがめ臣下の禮を盡してのち、おのが見聞したること、すなわち王國第二のもっとも忠實なる都市の謹嚴なる長上らが市集議院に會し、そこにて天上の靈氣に住まう神々に然るべき祈りを捧げてのち眞劍なる協議を行い、その間に、もし可能ならば海を分けて侵入せるゲール族の「翼もちたる」言葉ことばをこの世のなべての者のあいだに復權せしめうる方策を探れり、と報告せり。

——すでに胎動が始まっているんだ、って市民はなあ。野獸もどきサクソン野郎とその田舎弁なんか糞くらえだ。

そこでJ・J・は洒落者ぶった口調で嘴を入れ、両方聞いて下知をなせの譬え、事實は無視できないこと、つぶれた眼を望遠鏡にくつつけるネルソン式やり方、英國々民を弾劾するために權利剝奪の起訴状を作成するなんて、などと話すと、ブルームがそれを応援しようとして、隱便にとか、厄介なことだとか、イギリスの広い植民地がとか、その文明だとかを口にする。

——イギリスの梅毒文明のことをいっているのか？　って市民はなあ。奴らなんか糞くらえだ！　淫売の腹を痛めたうす馬鹿なんか、禄でなしの神の呪いを受ければいい！　音楽や美術や文学といえるほどのものはひとつもありゃしない。奴らの文明なんてみな俺たちから盗んだものだ。父なし子の出来損いの舌足らずの奴らめ。

——ヨーロッパ一族は、ってJ・J・はなあ……

——奴らはヨーロッパ人なんかじゃない、って市民はなあ。俺はパリのケヴィン・イーガンとヨーロッパにいたことがあ

る。ところが奴らのこと、奴らの言葉なんか便所の名前以外はヨーロッパのどこを探したってお眼にかかれやしない。

するとジョン・ワイズがなあ――

――「数知れず花は咲きひと見ねど輝きて。」

すると唐人の寝言を齧ったことのあるレネハンがなあ――

――イギリス人をやつつけろ！
コンスビユエ・レザングレ
ベルフイード・アルピヨソ 食わせ者のイギリスめ！

その者かく云いてのち、節くれ立ちて大いなる、逞しく力強き両手にて、漆黒の泡立つ強き麥酒を盛れる升盃をさし上げ、「赤手*の紋に勝利を」とそが部族の鬨とぎのこゑを擧げ、世界*の海の支配者にして、雪花石膏の玉座に不死なる神々のごと黙して坐せる勇猛な英雄揃いの民族なる敵かたきの破滅を祈願して飲み干せり。

――いったいどうしたんだ、って俺はレネハンになあ。一シルなくしちまった代りに六ペンス見つけた男みたいな顔をしてさ。

――金杯賞競馬のことで、って奴はなあ。

――ミスタ・レネハン、ぞの馬が勝ったんですか、ってテリはなあ。

――スロウアウェイ号だよ、って奴はなあ、一対二十で。まったくの穴馬だ。それにほかの馬なんかぼろ負けもいいとこぞ。

――で、パス〔サー・ウィリアム・アーサー・ハマー・B・(八七九)九五〇〕の牝馬は？
〔三砲兵中隊所属陸軍中尉、ボーア戦争に参加。万能スポーツマン、准男爵〔訳〕〕 ってテリはなあ。

――まだ走ってるよ、って奴はなあ。俺たちはみんなすっちゃまったのさ。ポイランは自分と女友達〔M〕のために、俺の予想したセブタ号に二ポンド賭けて。

――私はミスタ・フリンが教えてくださったジンファンデル号に、ってテリはなあ、二シリング六ペンス賭けたんです。

*ロード・ハワード・デイ・ウォールデンの持馬の。

—— 一対二十とはな、ってレネハンはなあ。離れ〔E〕に住んでるからこういうことになるんだ。金を捨てる号とはなあ、ってレネハンはなあ。まったく傑作だ、こんな馬鹿々々しいことはない。弱き者よ、汝の名はセプタ号なり〔「ハムレット」11〕、だ。

そこで奴がロハで失敬しようと、まだ残りがあるかどうかを確かめにボブ・ドーランが置いていったビスケットの缶〔21〕のところまで歩いていくと、例の老耄の野良犬が奴のうしろから疥癬かきの〔四六〕鼻面をもちあげて、またありつくと踏んだ。「ハバド婆さんは戸棚のところへいった。」

—— わんちゃん、もうないぞ、って奴はなあ。

—— 元氣を出せよ、ってジョウはなあ。ほかの奴がいなかったら、お前さんの馬が勝てたのにな。

他方では、ブルームがときどきちよっかいを出す間に、J・J・と市民は法律や歴史のことを論じていた。

—— ひとつによつては、ってブルームはなあ、他人の目の中のちりは眼につきませんが、自分の目の中の梁は眼につかないものです〔「マタイ伝」71三の転用〕。

—— ナンセンスだ、って市民はなあ。見ようとしぬい者ほど盲の者はいないんだ、その意味がわかるかね？ 四百万じゃ

なく、今日わが国にいるはずの行方の知れないわが二千万のアイランド人はいったどこにいるというのか？ われわれ

こそ失われたる部族なのだ。さらに世界中でもっとも優れたわが国の陶器や織物！ またユウエナリス〔デナムス・ユニウス・ロー

マ最後の厲刺 詩人〔説〕〕の時代にローマで売られていたわが国の毛織物や、アントリム郡〔「北東部」アルスタ州の郡。リネル製造の中心地。〕で栽培されるわが国の

亜麻とそこで織られるわが国のダマスコ織や、わがリマリック市〔「南西部」マンスタ州中部のリマリック郡の郡都。〕のレースや、わが国

の鞞皮工場や、ダブリン市在のパーリパウの近くのわが国の白色プリントガラスや、リヨン〔「フランス南東部、ロース県の絹織物の製産地」〔説〕〕のジャ

カール〔ジョゼフ・マリー・J・(一七五二—一八三四)〕以来生産されているわが国のユグノー・ポプリンや、わが国の絹織物や、わが国のフォックスフォード〔Ir 北西部、メイオウ郡中部のメイ川に沿う村。ツイード、數枚、その他の毛織物で有名〔説〕〕・ツイードや、ニュー・ロス〔Ir 南東部、ウエクスフォード郡西部、パロ〕のカルメル会修道院で製作された象牙色の浮彫り針編みレース、世界広しといえどもかくのごとく優れたものはない！

ウエクスフォード〔ウエクスフォード郡〕のカーメン市^{いち}で売るべき金塊とテュロス〔古代フェニキアの港町。現在のレバ〕の紫色染料〔ギリシア・ローマ時代に紫色は帝王その他高官の礼服色であった關係から、特に珍重〕とを持って、いまや人類の敵〔イギリ〕によって略奪されたジブラタルのヘラクレスの柱〔海峡東端の両岸に聳える二つの岩岬。欧州岸のジブラ〕の間を通ってきたギリシアの商人たちはどこにいるというのか？ タキトウス〔プブリウス・コルネリウス・T・(五五—一〇〇)〕。ローマの古代屈指の聖職者。ぐらいは読んでみたまえ。葡萄酒、毛皮、コネマ・カンブレンシス〔年代記者。コイルランド風土記〕。コイルランド風土記。コイルランド攻略記の著がある。〔説〕やプロレマイオス〔一八〕、せめてギラルドゥスーラ地方〔西部中央部、ゴールウェイ郡西〕の大理石、何処のものにも劣らないティペレアリ〔都の郡〔説〕〕産の銀、今日でも広く名の知られたわが国の馬、アイルランド原産の小型馬、さらにはスペイン国王フェリペはわが国近海での漁業権をうるために許可料の支払いを申し出たくらいだ。アングリア〔イングランドのラ〕のだに、ともはわが国の貿易を破壊し、わが国の家庭を疲弊させておいて、いったいわれわれにどんな償いをするというのか？ それに奴らときたら、パロウ川〔源をリーシム郡に発し、Ir 南東部を南に、ウオイク〕とシャノン川〔二九〕の川床をどうしても掘り下げたがらない、わが国民全員を肺病で死亡させるに充分な数百万エーカーの湿地と泥沼地があるというのに。

——国土の緑を取戻すなにか手を打たなけりや、ってジョン・ワイズ〔三八〕はなあ、われわれはやがてポルトガルみたいに一本の木もなくなり、また木が一本しかないヘルゴラント島〔砂岩から成る北海の小〕みたいななるぞ。落葉松や樅といった松柏類の樹という樹は片っ端から伐り倒されている。僕は近頃ロード・カースルタウンの報告書を読んだがね。

——名木を救え、って市民はなあ、あのゴールウェイ〔都の郡〔説〕〕のとわり、この巨木〔不明〕や、幹が周囲四十フイ

トで、枝葉の拡がりが一エーカーもあるあのキルデアの族長株の楯を。「*エイレの美わしき丘、おう」に立つ将来のアイランド人のためにアイランドの樹々を救え。

——全ヨーロッパが諸君に注目しているぞ、つてレネハンはなあ。

本日の午後、*アイランド全国森林保護連盟の最高主任監視員、シユバリエ爵ジャン・ウイズ・ド・ノラン〔ジョン・ワイズ・ノランのフランスの貴族名化〕とマツ・ケイコクのミス・モミ・ショウハクジュアとの結婚式には多数の内外の名流婦人が出席した。レイディ・シンリン・ニレノコカゲイド、ミセス・バーバラ・ラウカバムチ、ミセス・ボル・トネリコシユ、ミセス・ヒイラギ・ハシバミイローメ、ミス・ゲツケイジュ・ローレル、ミス・ドロシイ・トウヤブイク、ミス・クライド・ジュウニツリズ、ミセス・ロウアン・グリーン、ミセス・ヘレン・ブドウハビコリング、ミス・ヴァージニア・ツタバー、ミス・グラディス・ブナチ、ミス・オリーヴ・ナカニワス、ミス・ブラーンチ・カエデブル、ミセス・モード・マホガニー、ミス・マイアラ・ギンバイカル、ミス・プリシラ・ニワトコフラワ、ミス・ミツバチ・スイカズル、ミス・グレイス・ポブラ、ミス・オ・ミモザ〔おじぎぎょう、一名「ねむりぐさ」訳〕・サン〔ライト・オペラ「ゲイシー」(一八九九)の主演のひとり、著者の名〕、ミス・レイチエール・スギバド、ミシズ・ユリ&スミレ・ライラック、ミス・ウチキ・アスパノール、ミセス・キティ・ツユヌレゴケス、ミス・メイ・サンザシーン、ミセス・グローリアーナ・シユロム、ミセス・カズラ・モリスト、ミセス・アラベラ・ブラックモリド、それに王領カシウバメのミセス・ノーマ・ウバメガシが出席して婚礼に光彩をそえた。父君*ドングリ城のマツショウハクジュアによって祭壇の下で花婿の手に引渡された花嫁は、黄昏^{なせれ}グレイのスリッパを下地にした、グリーンの艶出しシルク仕立ての特製の花嫁衣裳を着て、エメラルド一色の帯を巻き、下の方はスカートのすそを三列のダーク・グリーンの総^{よま}で带状に飾り、さらに全体がどんぐりを思わせる青銅色の、吊り紐状リボンとヒップのリボン飾りで引立てられて、まさにえもいわれぬ魅力を漂わせていた。花嫁付添いの少女、実は花嫁の妹たち、ミス・カラマツ・ショウハクジュアとミス・モミ・ショウハクジュアのふたりは新婦とおなじ色合

いのよく似合う衣裳を着ていた、優美なフラミンゴ色の一本の細い縦縞がブリーツ・スカートに縫いつけられ、また翡翠色のトック帽にも、淡い珊瑚色の鷲の冠毛としてその色が無造作に使われていた。セニョール・エンリケ・フロール〔ミスタ・フラワ(Bのラヴ・レター周遊色)に相当するポルトガル名〕が世に聞えた名手振りを發揮してオルガン演奏を受持ち、式の最後には、婚礼ミサ所定の曲目以外に耳新しく印象的な「樵夫ヤムコウさん、その木は伐らないで」の編曲を披露した。教皇の祝福を受けてのち、庭園ニホの聖フィアグル教会を退出するときに、幸福そのものの新郎新婦ははしばみの実、ぶなの実、ローレルの葉、柳の菜蕘花ネハナ、蕙ツバの葉、柊ヒイラギの実、やどりぎの小枝、それになかまどの若枝からなるにぎやかな十字砲火を浴びた。ウイズ・シヨウハクジユア・ノラン夫妻はシュヴァルツヴァルト〔ドイツ南西部の森林地帯「歌」〕で静かなハネムーンを過す予定。

正誤表

頁行	誤	正
二四 五	書き加わえる	書き加える
三三 五	Du <i>Dubliners</i> U = <i>Ulysses</i>	Du <i>Dubliners</i> P = <i>Portrait</i> U = <i>Ulysses</i>
三三 一	中世江の聖者	中世江の聖人
三四 九	シドニ・パレイド	*シドニ・パレイド
三四 九	*ペン・ホウス	*ペン・ホウス
三八 一	*黒色の甲冑	*黒色の甲冑
三八 一	*プリンセス・ストリート	*プリンセス・ストリート
四二 九	大不・列顛	大不列顛
四四 四	だれを笑って	だれを笑って
四四 七	跳場	踊場
四六 五	ただけません	ただきません
四七 九	テリ	テリ [42]
五九 一	ボブ・ドーラン	ボブ・ドーラン [42]
六四 一	ミセス・オウダウド	ミセス・オウダウド
六四 一	一〇〜一世紀	一〇〜一世紀
六四 一	<i>Touépaíca</i>	<i>Touépaíca</i>
六四 一	Oh, never fear for Ireland, for she has so'gers still,	Oh never fear for Ireland, for she has so'gers still,
六四 一	For Remy's boys are in the wood, and Rory's on the hill;	For Remy's boys are in the wood, and Rory's on the hill,
六四 一	And never had poor Ireland more loyal hearts	For Remy's boys are in the wood, and Rory's on the hill,

七六	三	Sir Henry Bagnal ホウエン・オウケンロウニ司察 薔薇」の訳注参照 四〔実は五〕州 grave) と	the hill; And never had poor Ireland more loyal hearts than the— May God be kind and good to them, the faithful Rapparees! The jewel waar ye, Rory, with your Irish Rapparees!
七七	六	前二四一〜一三三四年	• • • • •
八〇	八	(Ir. Cnoc Dhéanamh) ヲン Conor Mac Nessa's sons) (Ir. loe [=Lough])	• • • • •
八二	五	前二四一〜一三三四年	• • • • •
八三	一八	Charles Coborn (1852-1945) 〔=son of the bard〕	• • • • •
八四	五	(Ir. Cnoc Dhéanamh) ヲン Conor Mac Nessa's sons) (Ir. loe [=Lough])	• • • • •
八八	一五	前二四一〜一三三四年	• • • • •
八九	一八	Charles Coborn (1852-1945) 〔=son of the bard〕	• • • • •
九二	一	(Ir. Cnoc Dhéanamh) ヲン Conor Mac Nessa's sons) (Ir. loe [=Lough])	• • • • •
九六	一	前二四一〜一三三四年	• • • • •
一〇〇	三	Charles Coborn (1852-1945) 〔=son of the bard〕	• • • • •
一〇八	六	(Ir. Cnoc Dhéanamh) ヲン Conor Mac Nessa's sons) (Ir. loe [=Lough])	• • • • •
一一四	四	前二四一〜一三三四年	• • • • •